



## 共存・共栄 (II)

Mutual Coexistence with the Earth

間 處 威 俊

Taketoshi Madokoro

EICA 名誉会員

前号で、地球上の生物の未来へのタイムスケジュールの中では人類は数千年で滅亡し、10億年後には地球上の水分が蒸発揮散してしまい、火星のように生物の生息できない天体となってしまうと予想されていることを紹介しました。人類の滅亡については、環境破壊と氷河期の再来が原因になると予想されています。現在の地球上では、1年に5万種以上の生物が絶滅していきつづけているといわれています。毎日100種以上の計算になります。恐竜の生存していた頃は1000年に1種類、1000年前には10年に1種程度であったと推定されています。この間に新しく進化したりする種類もあつたことでしょうが絶滅速度は幾何級数的に増加してきています。

絶滅の原因はいろいろ推測されていますが、有史以降は人類の増加によって食糧として消費されたり、生活圏が奪われたりすることによることが多いが、それは自然のサイクルの中での営みでもありました。しかし産業革命以降においては、エネルギー革命の進行に従って地球上の人類の増加が級数的に伸びてきました。日本では特に戦後半世紀でほぼ倍の1.2億人にまで伸びてきました。しかし、21世紀に入り少子化が進んできてこのままでは3000年には滅亡的な人口になってしまうと計算している予想もあるようです。

全国過疎地域自立促進連盟のデータによれば、現在過疎化にみまわれている市町村は全市町村の50%近くの797市町村になっています。人口にすると10%以下で11,355千人となっています。集落の過疎化の進行が進むことで、里山の荒廃が起り21世紀に入ってから熊の集落への出没が頻繁になり、人との間の遭遇と人的被害が増加してきています。平成14年には100人を越す被害者が出ています。熊の出現については冬眠前の食料の木実が一定の周期で豊作と不作を繰り返していること等も原因で人の住む里にまで出現することになっているようです。しかし、里山に集落があつて多くの人の営みがあつた頃は近づけなかったが、里山の過疎化と離農荒廃によって熊の生活圏が里山にまで広がってきたことから人とのニアミスが頻繁化することになっているのではないのでしょうか。

人口の減少による過疎化は、人間の生活圏の縮小を起すが自然界で生活圏を奪われていた動植物には生活圏の復活になります。熊について言えば、月の輪熊は

九州ではすでに絶滅したとされていますが、そこには人間に生活圏を奪われたことと無節操な殺戮による大きな原因になっています。九州で里山の荒廃にみまわれる集落があつても月の輪熊が再び棲息することはできないでしょう。絶滅した生物は二度と人間と共生することができないのです。

日本での絶滅動物でよく知られている動物に日本オオカミがあります。明治時代に人による殺戮によって絶滅に追いやられた代表の動物です。近年北海道のエゾシカや本州でのシカが増加して畑や山林に被害が与えていることがよく報道され、シカ肉の積極的な食用としての利用などが記事や広告になっています。現在日本では自然界での棲息動物の頂点には人間を除けば熊ぐらいしか思い浮かびません。明治時代まではオオカミが肉食動物として頂点に立っていましたが、現在では大型。小型を含めて強い肉食動物が生息していません。そのために人的被害もないのですが、人間界から見た食物連鎖の機能もアンバランス化してきているように見えます。

人間は極地や超高山地、砂漠を除けば地球全体を生活圏としています。人類以外の生物は生息環境と範囲には限界(テリトリー)あり、そこには食物連鎖を通じての共存・共栄の世界があります。1億2千万ほどの人口になった日本の現状は食糧の自給率は30%台を確保するだけで殆どが他国の食料に依存している現状です。当然、全食料を国内で賄おうとすれば自然界との共生は不可能な状況にあり、忽ち自然界には大きな打撃が与えられることになるでしょう。地球規模では、ほぼ126億人にまで人口が増加すると推定されています。これだけの人口を賄う基本になるのは植物性食糧です。野菜に関しては近年食物工場の普及により多毛作が可能になってきていますが、穀類・根菜類については栽培土壌としての自然界に頼っているのが現状です。肉食では1kgの生産に牛で10kg、豚で4kg、鶏で2kgほどの穀物が消費されます。

アマゾンでは年間平均20,000km<sup>2</sup>近くの森林が穀物生産などのために消滅しています。地球温暖化など環境影響ばかりでなく、失われた森林を生活圏としていた動植物、地中生物の生息を脅かしてしまい、ひいては我々人間との共存・共栄の基盤を失わせることになります。これは引き返せない哀しい現実です。(完)